

第2期上松町 地方人口ビジョン（概要版）

○上松町人口ビジョンの位置づけ

上松町人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の趣旨を尊重し、上松町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたり、人口減少抑制の観点から、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて、効果的な施策を企画・立案するうえで重要な基礎となるものです。

上松町人口ビジョンは、本町における人口の現状分析を行い、人口に関する住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

○対象期間

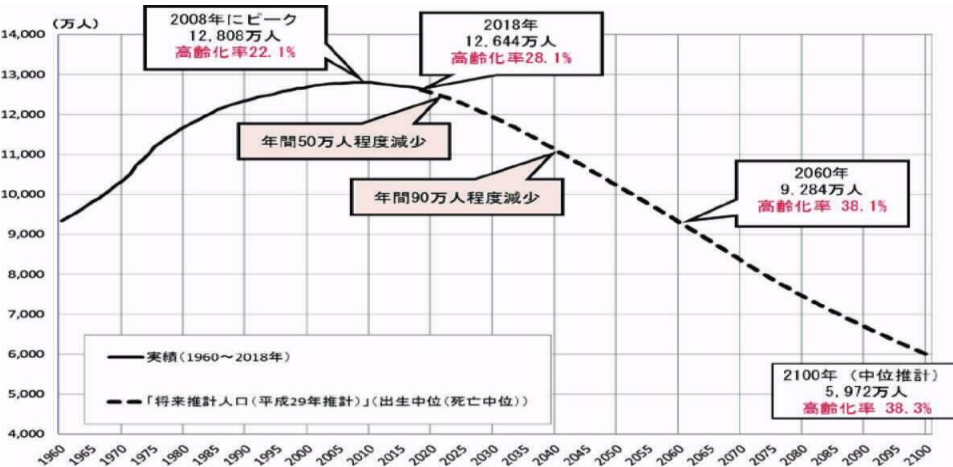
上松町人口ビジョンの対象期間は、2015年度（平成27年度）を基準年として、45年後の2060年度（令和42年度）とします。

○加速する日本の人口減少

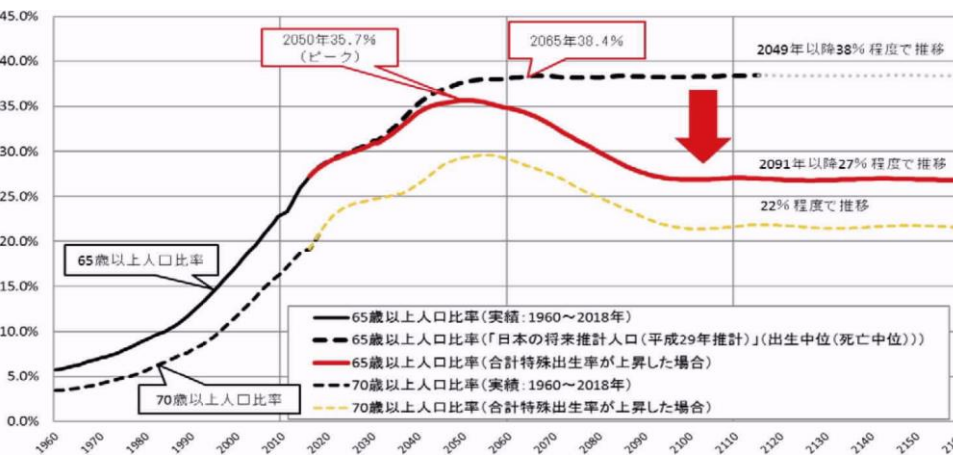
2008年（平成20年）をピークに日本の総人口は減少局面に入り、2018年（平成30年）10月1日時点の総人口は1億2,644万3千人、2018年（平成30年）の出生数は1899年（明治32年）の調査開始以来最低の91万8千人を記録しました。

このままの状態が続くと、2060年（令和42年）には1億人を下回り、高齢化率も38.1%となることが推計されています。

国では、様々な施策を講じて人口の減少を食い止めようとしています。



日本の総人口の将来推計（まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（平成元年改訂版））

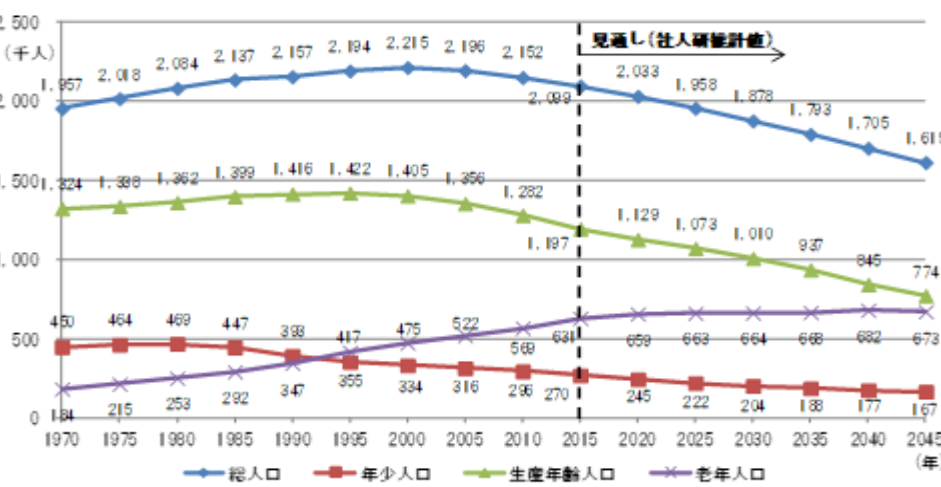


日本の総人口の将来展望（まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（平成元年改訂版））

○加速する長野県の人口減少

長野県の総人口は、2000年（平成12年）の221.5万人をピークとして減少に転じ、2015年（平成27）には210万人となっています。

社人研の推計によると、今後30年間（2015年（平成27年）～2045年（令和27年））で48.4万人減少し、なかでも年少人口、生産年齢人口はそれぞれ10.3万人、42.3万人減少と推計される一方、老年人口はほぼ横ばいと推計されます。



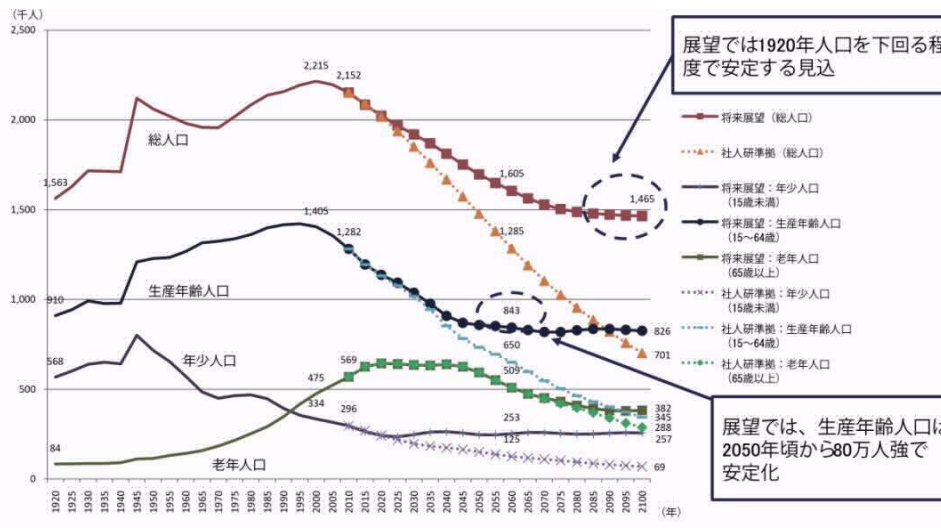
長野県の総人口の将来展望（実績値は国勢調査、推計値は社人研）

○長野県の人口の将来展望

長野県の人口は、「信州創生戦略（平成28年3月改訂）」に沿って人口減少に歯止めをかける一定の政策を講じることにより、将来出生数が回復し社会増減がゼロとなった場合でも、2060年（令和42年）頃に160万人程度で定常化するまで減少し続ける見込みです。

そのうち、生産年齢人口については、2015年（平成27年）の120万人から2050年（令和32年）頃から80万人強に減少する見込みです。

このような人口の減少、特に生産年齢人口の減少が地域社会や産業の担い手不足、需要の減退につながり、その結果地域活力の低下を招くことが懸念されます。



長野県の総人口の将来展望（まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（平成元年改訂版））

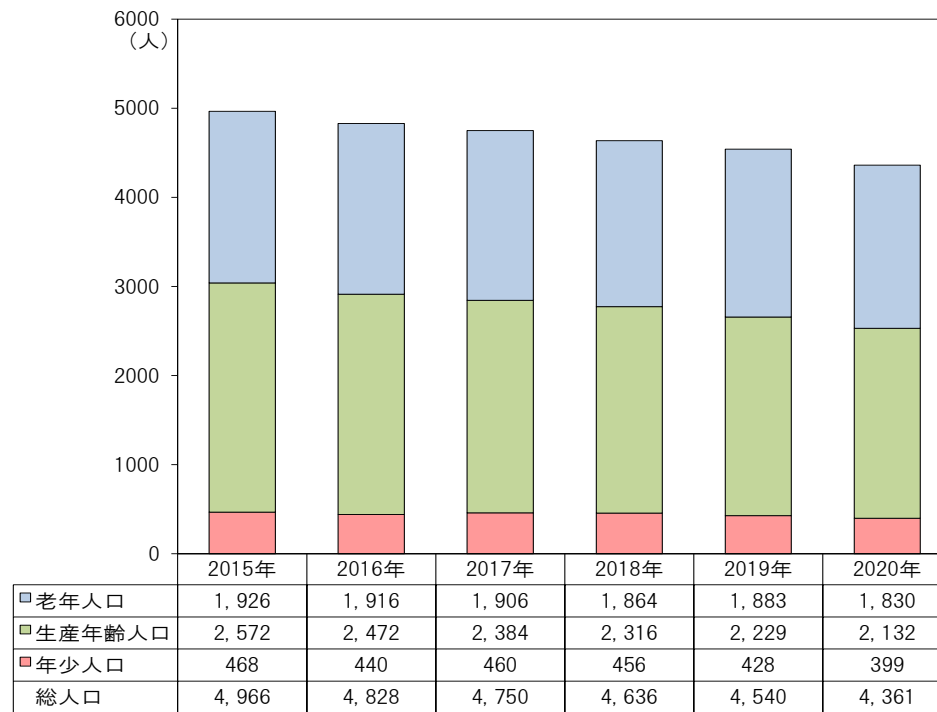
○上松町の総人口と構造別人口の推移

国勢調査によれば、総人口は1965年（昭和40年）の10,083人をピークに減少に転じ、1985年（昭和60年）には7,370人となり、2005年（平成17年）には6,000人を、さらに、2015年（平成27年）には5,000人をも下回りました。

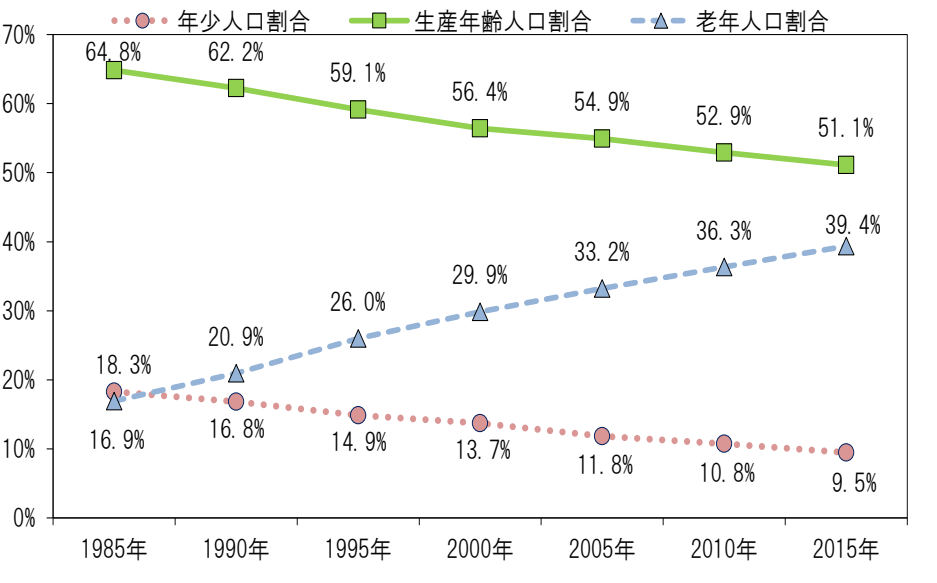
2000年（平成12年）までは5年間の減少率が5%程度であったものが、2005年（平成17年）以降は減少幅が大きくなり、2015年（平成27年）では11.0%にまで拡大しています。

人口構成をみると少子高齢化が続いており、生産年齢人口が減少し、2010年（平成22年）には3,000人を下回りました。

2015年（平成27年）の年少人口割合は9.5%、生産年齢人口割合が51.1%、老年人口割合が39.4%となっています。



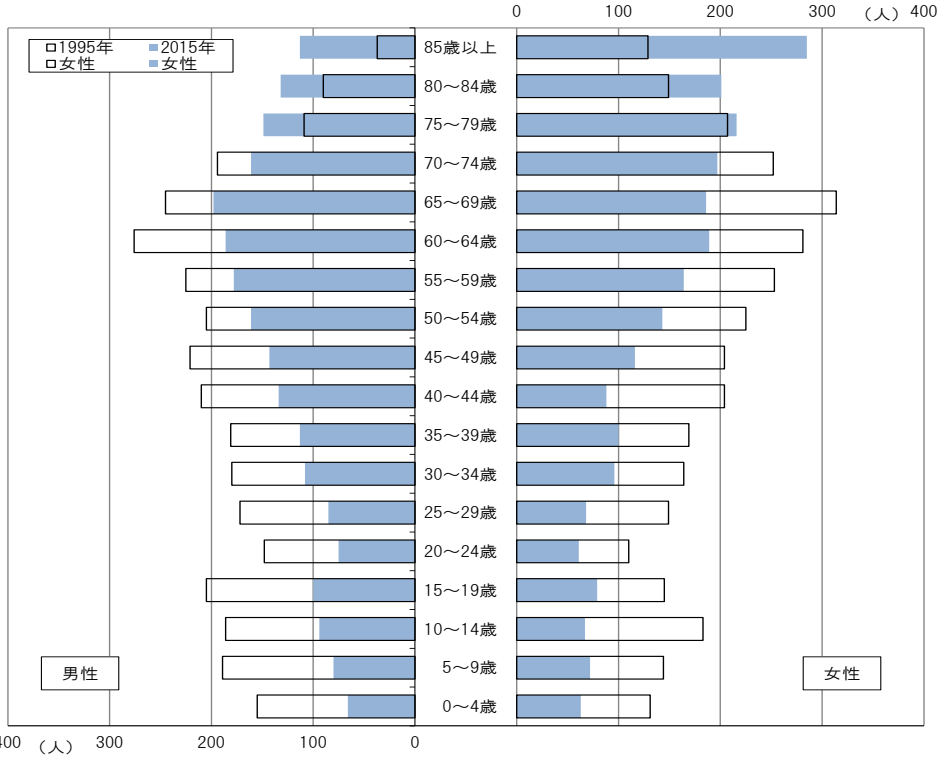
上松町の総人口の推移（国勢調査）



上松町の年齢3区分別人口の推移（国勢調査）

○上松町の男女別年齢別人口分布

1995 年（平成 7 年）と 2015 年（平成 27 年）の男女別年齢別人口分布を比較すると 1995 年には、年齢の若い層が年齢の高い層を支えている形になっていたものが、2015 年（平成 27 年）には年齢の高い層に重心が移動し、支えきれない形へと変形していることがわかります。

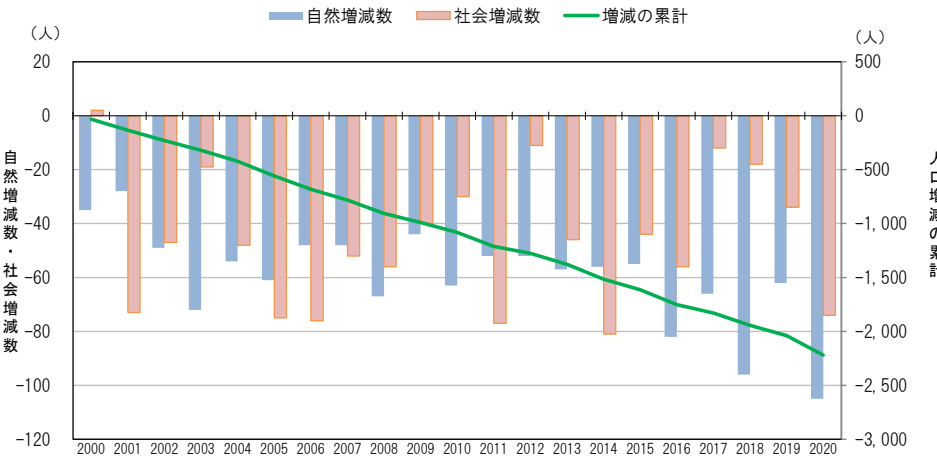


男女別年齢別人口分布（1995 年（平成 7 年）と 2015 年（平成 27 年）の比較）

○上松町の自然増減・社会増減の推移

2000 年（平成 12 年）以降における人口動態の推移を見ると、2000 年（平成 12 年）の社会増以外は 2020 年（令和 2 年）まで自然・社会共に減少が続いています。特に自然増減では 2016 年（平成 28 年）、2018 年（平成 30 年）及び 2020 年（令和 2 年）に 100 人近い減少数があり、社会増減では 70 人を超える減少数がある年が 6 回も訪れています。それらの大幅な減少の影響もあり、20 年間の人口増減の累計では-2,219 人となっています。

また、2020 年（令和 2 年）の人口動態比率を木曽郡内の他町村と比較すると、上松町は自然・社会増減率ともに最も深刻な状況となっています。



人口動態の推移（住民基本台帳）

上松町の人口の将来展望

○上松町の人口の将来展望

わが国全体が人口減少社会に移行し、現状維持では人口構成の少子化・高齢化が更に進行すると危惧され、また、一人ひとりが様々な価値観を持つなか、人口減少時代の到来に合わせたビジョンへの転換が迫られています。

こうした現実を十分に認識した上で、本町では人口増加を目標とするのではなく、いかにして人口減少を抑制するのかという視点に基づき、時代によく適応した「創生」のための施策に取り組むことが重要であると考えています。

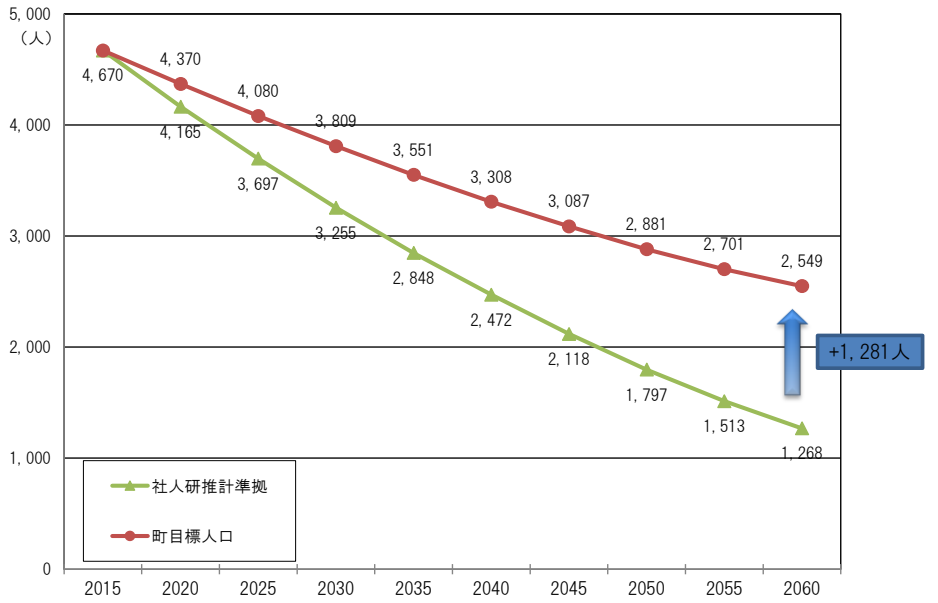
また、これまでの分析結果や国の長期ビジョン等を勘案し、2060 年（令和 42 年）までに本町が目指す人口の展望を示します。

将来展望の仮定値	
出生に関する仮定	安心して妊娠・出産・子育てができ、子どもに充実した教育を受けさせることができる環境の実現により、「住み続けたい・住んでみたい・帰りたい まちづくり」への実現を目指し、2030年（令和12年）の合計特殊出生率を1.84人（県民希望出生率）とし、以降維持するものとします。
移動に関する仮定	高校卒業後等の就職に伴う転出抑制や、大学進学、卒業後の就職で転出していった世代が再び上松町へ戻り、就労の希望を実現することができる雇用環境を創出し、Uターン・Iターン・Jターン等の促進を図ることにより、「住み続けたい・住んでみたい・帰りたいまちづくり」への実現を目指し、2040年（令和22年）までに社会移動数が均衡するものとします。

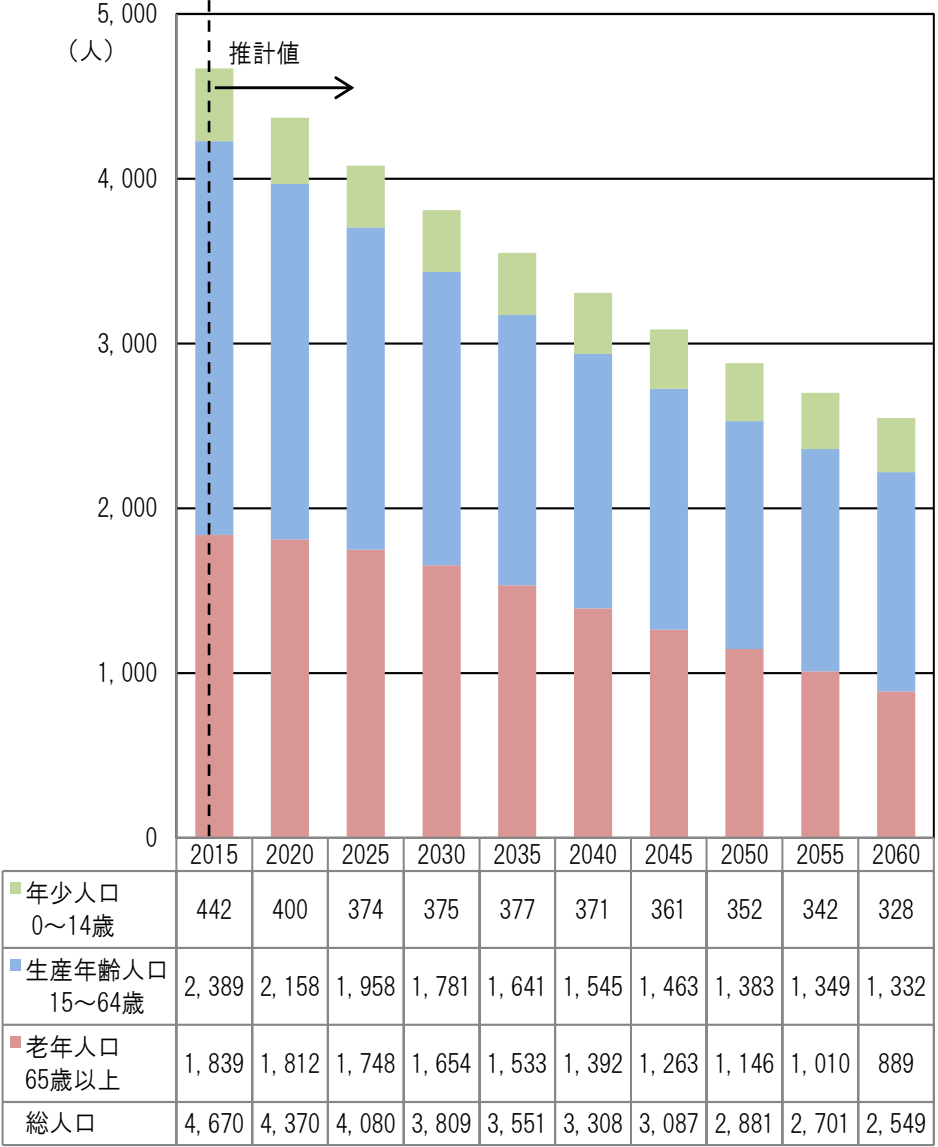
○仮定値に基づく将来人口推計と社人研推計との比較

上記に示した仮定を踏まえ、将来展望のシミュレーションを行うと、社人研の将来人口推計と比較して 2060 年（令和 42 年）には約 1,280 人の増加が見込まれます。

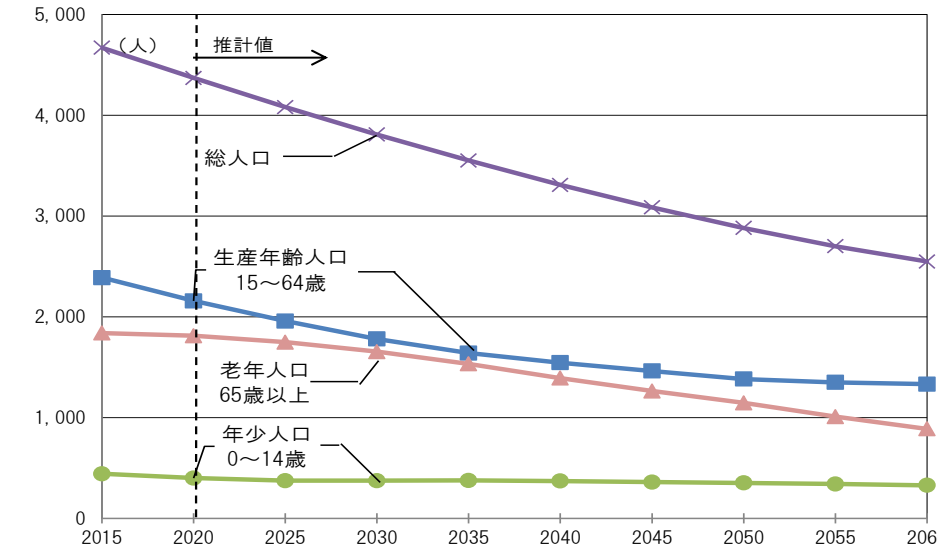
働きやすく、暮らしやすい環境づくりを目指し、合計特殊出生率の向上、転入者数増加、転出者数減少に取り組み、年齢3区分の割合を改善しながら、2040 年（令和 22 年）に 3,308 人、2060 年（令和 42 年）に 2,549 人の総人口を目指します。



社人研推計準拠と目標推計人口との比較



上松町の将来人口の展望



上松町の人口の将来展望と年齢3区分別人口の展望